

## 第5章 サハラ急進派グループを支える〈経済〉活動

茨木 透

### はじめに

サハラ急進派組織の「財政基盤は何か」という問に対して答えることは簡単なことではない。経済だけではなく、その活動全体がほとんど闇に包まれている。彼らについて語られているものの大部分は伝聞か推測か、ときに誹謗中傷も混じる。

その例の一つとして、フランスの大衆週刊誌『ル・ポアン *Le Point*』の記事を見てみたい。同誌は、2013年1月のフランス軍のマリ侵攻開始とその直後のアルジェリアでのイナメナス事件を受けて、「われわれの敵・イスラミスト」と題した特集を組んだ（2013年1月24日、第2106号）。この特集の「ジハードの軍資金」の中では、以下の4つが組織の資金源として挙げられている。①誘拐した人質の身代金、②麻薬の不正取引、③麻薬の輸送に対する保護、④中東カタールからの資金援助、の4つである。無論、いくつもの組織があるなかで、すべての組織がこの4つのどれもから資金を得ているわけではない。組織によって資金源は異なっているとされている。

2013年1月のはじめの時点でマリ北部に展開していた主な組織には、「イスラム・マグリブ諸国のアルカイダ組織 Al-Qaida au Maghreb Islamique (AQMI)」<sup>1</sup>、2011年にAQMIから分派し、結成された「西アフリカ統一聖戦運動 Mouvement pour l'Unification et le Jihad en Afrique de l'Ouest (MUJAO)」、イヤド・アグ＝ガリが率いる「アンサール・アッ＝ディーン Ansar ad-Din (アンサール・ディーン Ansar Dine とも)」<sup>2</sup>、「ターバン旅団（覆面旅団とも） Al-Mouthalimin」というイナメナス事件<sup>3</sup>の首謀者であるモフタール・ベルモフタール Mokhtar Belmokhtar が AQMI を離れて結成した組織<sup>4</sup>の4つのジハード組織に加え、ジハードではなくマリ北部の分離独立をめざすトゥアレグ人の組織「アザワド解放民族運動 Mouvement national pour la libération de l'Azawad (MNLA)」<sup>5</sup>などがあった。

『ル・ポアン』の記事では、身代金は AQMI が、麻薬の不正取引は MUJAO が、麻薬の輸送保護には AQMI が、カタールからの資金にはアンサール・アッ＝ディーンおよび MNLA さらに MUJAO が関係しているとされた。

本稿では、まず AQMI が受けとったとされる身代金について簡単に見たあと、この地域での麻薬を含む取引全般、およびその輸送にたいする保護について検討し、そのあと「カタールからの資金」について簡単に触れる。最後に、イナメナス事件の首謀者、ベルモフタールに関する最近のメディアの論調の変化について考察したい。

## 1. 身代金

AQMIの最大の資金源は、誘拐した西洋人の解放の代償として支払われた身代金だろう。2003年にアルジェリア南部で誘拐した30人あまりの観光客の解放の代償として、AQMIの前身の「宣教と戦闘のためのサラフィスト集団 *Groupe salafiste pour la prédication et le combat (GSPC)*」が身代金を受けとって以来、何度も誘拐が繰り返されてきた。2014年7月29日の『ニューヨーク・タイムズ』によれば、2008年以降にAQMIが手にした身代金の総額は9千万ドルあまりとされる。その内訳は表1のとおりである (Callimachi, 2014)。ただし、この記事ではAQMIとその分派であるMUJAOや血盟団との区別はされておらず、9千万ドルというのは、これら3つの組織が受けとった額の合計と考えたほうがよいだろう。

表1 AQMIに支払われた身代金(2008年以降)

誘拐の年	解放の年	身代金の金額 (100万ドル)	解放された人の内訳
2010	2013	40.4	フランス人4人
2010	2011	17.7	フランス人1人、トーゴ人1人、マダガスカル人1人
2009	2009	12.4	スイス人2人、ドイツ人2人
2011	2012	10.8	スペイン人2人、イタリア人1人
2009	2010	5.9	スペイン人3人
2008	2008	3.2	オーストリア人2人
2008	2009	1.1	カナダ人2人

出所：Callimachi (2014) より筆者作成

またさらに、この記事が掲載されて後の2014年12月には、フランス人セルジュ・ラザルビック *Serge Lazarevic* が解放され、身代金として2千万ユーロが支払われたとの報道があった<sup>6</sup>。これを加えると2008年以降だけで1億ドル以上もの資金をAQMI等は手にしたことになる。

## 2. 密輸

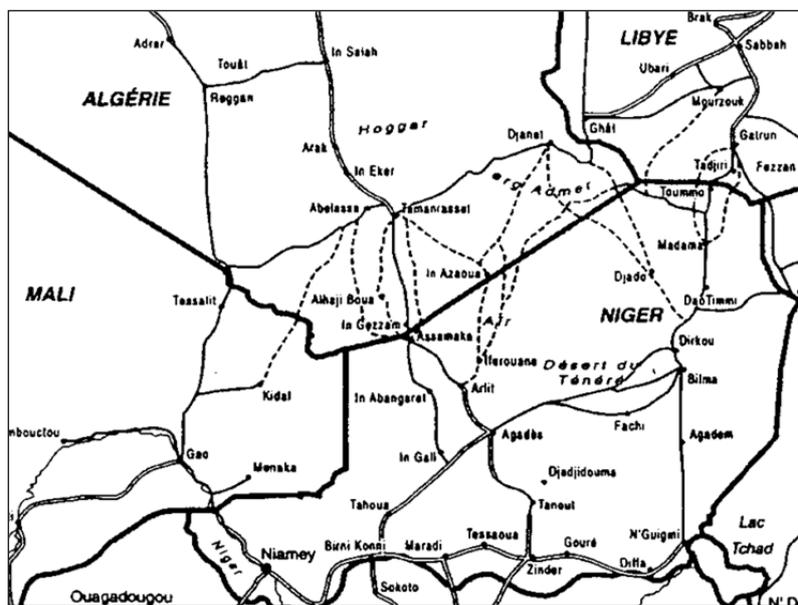
サハラにおいては国境を越える取引は、その多くが違法であるか不当＝非道徳的なものである。このような状況を、アブラハム等は以下のように整理している（表2参照）。不正とは、法の問題であるとともに、社会的ないし道徳的な問題である。法の問題、すなわち合法か違法かは、法律がそれを禁止しているか否かによる。だが、違法である行為すべてが不正と見なされるわけではない。社会的ないし道徳的な問題、すなわち正当＝道徳的か不当＝非道徳的かは、法律とは別に人びとがどう判断しているかによる。つまり、行為は①合法かつ正当であるか、②合法だが不当であるか、③違法だが正当であるか、④違法かつ不当であるかのどれかに属する（Abraham and van Schendel, 2005: 17-20）。

表2 合法／違法、正当／不当

	合法	違法
正当＝道徳的	望ましい状態	闇経済／辺境経済
不当＝非道徳的	縁故経済／破綻国家	アナーキー

①の合法かつ正当な行為については、あえて説明する必要もないだろう。②の合法だが不当＝非道徳的な行為の例をあげると、例えば〈善意〉の第三者による盗品の売買などはこれにあたるだろう。アブラハム等の縁故経済という項目には、身内びいきなども含まれる。③の違法だが正当な行為には、かつての闇市での取引がこれにあたるだろう。辺境経済とはまさにマリ北部の経済を言い表している。④の違法かつ不当な行為は、いうまでもなく麻薬の取引などがこれにあたる。アブラハム等はこれをアナーキーとしているが、無政府状態ではあっても、無秩序ではないとする議論もある<sup>7</sup>。実際には、マリ北部では人びとの行為は、イスラームに基づいて「ハラール（許された）」か「ハラーム（禁止された）」かの基準で判断されている。以下では、主な輸出入品である食料とガソリン、家畜、タバコ、麻薬について順に見ていきたい<sup>8</sup>。

図1 サハラとサヘルの交易路



出典 Grégoire, 2010: 150.

### (1) 食品・ガソリン

マリのやニジェール北部の人びとの生活は、アルジェリアないしリビアから国境を渡って運ばれてくる食料品や燃料などの生活必需品に全面的に依存している。その最大の理由は、産油国であるこの2つの国においては、粉ミルク、パスタ類、セモリナ（硬質小麦粉）、食用油などの基礎食料品および石油製品に補助金を出して価格を低く抑える政策がとられていることにある。ちなみにどれぐらい価格差があるのかを、各国の石油の小売価格で比較すると、1リットルあたりリビア 0.12 ドル、アルジェリア 0.25 ドルなのに対し、マリでは 1.15 ドル、最近石油の産出がはじまったニジェールでも 0.91 ドルである<sup>9</sup>。

もうひとつの理由は、マリ北部の場合、首都バマコから遠く離れたこの地域へは首都から輸送するよりもアルジェリア南部の町からサハラを越えて運ぶ方が距離的に近く、またバマコから北部へ向かう道路の整備がまったく進んでいないという輸送の問題もある。

だが、これらの生活必需品の輸入は違法である。アルジェリアもリビアも補助金を出している物資の輸出は禁止しているので、これらの物資が国境を越えるのを禁止している。しかし、アルジェリアやリビアの国境警備や税関は、生活必需品の密輸については黙認を続けているのが実情である。そして当然ながら、人びとはこれら取引はハラルだと考えている。マリ北部では、この大きな利益を生む輸入業を営んでいるのはガオ Gao の町のアルジェリア系アラブ人商人であり、地元のトゥアレグ人やアラブ人がトラックの運転手として働いている。また、マリやニジェールだけではなく、スーダン、チュニジア、モロッ

コ、モーリタニアといった周辺国も、これらの安価なアルジェリアやリビアの物資を密輸している。

これらの輸送に対する保護や護衛であるが、輸送中に強盗に遭う可能性は低く、トラックに対しての直接的な護衛は必要ではないと思われる。ただし、町の入口などの要所に検問を置いたりして、〈税〉を徴収している可能性はあるだろう<sup>10</sup>。それは急進派組織だけでなく、さまざまな機会にポケットマネーを要求する兵士や警官も同じである。

## (2) 家畜

一方、サヘル諸国からマグリブへの輸出には制限はない。とはいえ、ニジェールやマリ北部で生産される物で輸出できる物はラクダやヒツジ、ヤギなどの食用家畜ぐらいしかない。これらは、マグリブへ輸出すれば国内で販売するよりも数倍の値で売れるので、多くがサハラを越え運ばれていく。国境を通過する際に税関で申告をすれば合法的輸出となるが、多くの家畜キャラバンは税関の置かれていないルートを通って国境を越えているようである。

南から北への輸出品には、家畜のほかには化粧用の染料であるヘナ（ヘナ）やギニア湾諸国から輸入した「パーニュ pagne」と呼ばれるアフリカン・プリントの布地などもあるが、金額的にはわずかである。

## (3) タバコ

タバコは西アフリカの旧フランス植民地諸国では輸入制限はされておらず、外国タバコも自由に輸入できる。他方、アルジェリアやリビアは、国産タバコ保護のため輸入を禁止ないし厳しく制限してきた。そのため、ベナンのコトヌ港、トーゴのロメ港、あるいはモーリタニアのヌアクショット港といった大西洋の港からニジェールやマリを経由し、サハラ砂漠を縦断しアルジェリアやリビア、そこからさらに再輸出されてヨーロッパへ向かう大規模な密輸網が存在し、膨大な利益を上げているとされる。マクガバンは次のように述べている。

サハラにおけるタバコ貿易は年間10億ドルに達するとみられている。その背後には西アフリカの湾岸都市のレバノン人実業家や地中海のイタリア・マフィアなどによる国際的なネットワークがある。これらのタバコは、アメリカ・ノースカロライナからモーリタニアやトーゴなどの西アフリカ沿岸の都市まで、直接運ばれてきたり、一度ヨーロッパの港に寄るものの、荷下ろしされることなくそのままアフリカまで運ばれ

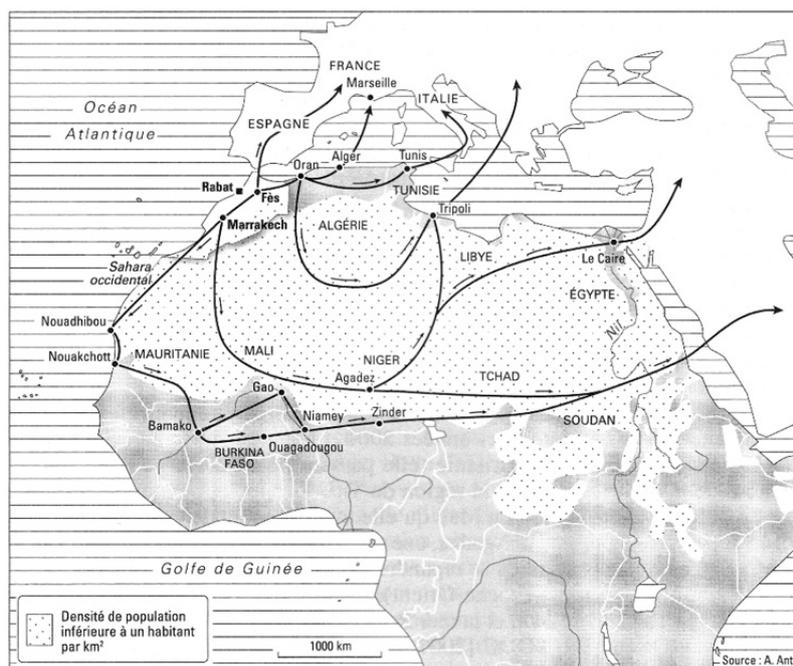
てきたりすると言われている。アフリカの港から、さらにタバコはサハラを越え北アフリカへ、そして地中海を渡り、ヨーロッパへと運ばれ、〈タックス・フリー〉で販売される (McGovern, 2010:88)。

マリの隣国ニジェールでのタバコ輸送を詳しく調べたブラシェットによれば、ギニア湾の港からコンテナのままアガデス Agadez まで運ばれたタバコは、そこでトラックに積み替えられ、軍隊ないし税関の護衛がついたキャラバンを編成し、サハラ砂漠を横断してニジェール東部のディルク Dirkou まで運ばれる。その際、兵士や税関職員には〈護衛料〉として〈料金〉が支払われる。ディルクからはリビアからやって来る4輪駆動のピックアップに積み替えられ国境を越えてゆく (Brachet, 2009: 123)<sup>11</sup>。これは隣国への違法な輸出に国家組織が関与している例であり、ニジェールの国内法に照らせば違法ではないが、その道徳性は問われるだろう。

#### (4) 麻薬

サハラを経由して中東やヨーロッパに運ばれていく麻薬には、モロッコ産のマリファナと南米産のコカインの2種類がある。モロッコのマリファナの歴史は古く、もともとはモロッコからヨーロッパへ直接地中海を越えて運ばれていた。だが取り締まりの強化とともにルートは変更され、モロッコから一度西サハラやモーリタニアに南下したあと、そこから東へ進み、マリ北部からニジェール北部を通り、アルジェリア、リビア、さらにエジプトへと向かうコースがとられるようになった。

図2 モロッコのマリファナの輸送ルート

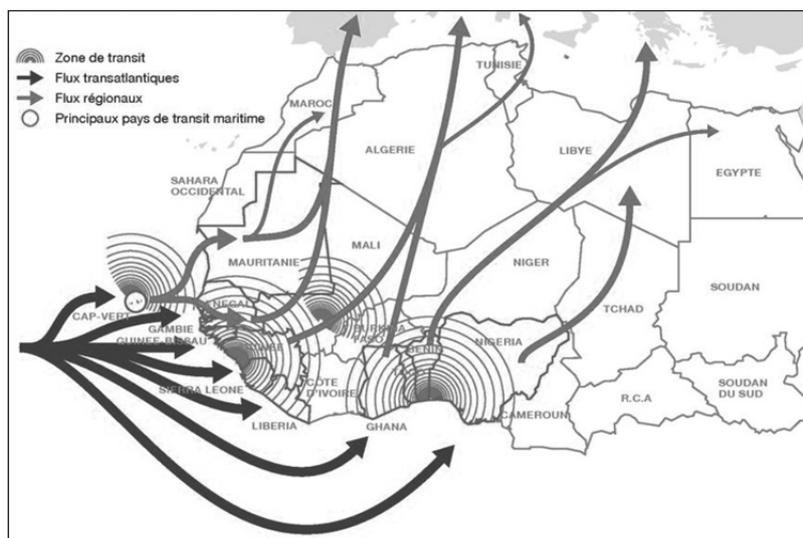


出典 Julien, 2011: 128

西アフリカを経由するコカインの輸送は、2000年頃より始まったとされる。生産地である南米から船や飛行機で西アフリカまで運ばれてきたコカインを、マリファナと同様のルートを通してサハラを縦断して北アフリカや中東に運び、最終的にはヨーロッパに持ち込むものである。この輸送にはよく整備された4輪駆動車が使用され、運転手はGPSや衛星電話を使いながら移動しているという<sup>12</sup>。また2009年の「エアー・コカイン」事件<sup>13</sup>によって、マリ内陸部まで南米から飛行機で直接持ち込むルートの存在も広く知られるようになった。

コカインがもたらす利益は膨大である。生産地の南米で1キロ2千から3千ユーロだったものが西アフリカに運ばれると1万ユーロになり、サハラで1万2千ユーロ、北アフリカの都市でまで運ばれると1万8千から2万ユーロ、最終消費地のヨーロッパでは3万から4万5千ユーロにまでなるとされる (Frintz, 2013)<sup>14</sup>。

図3 南米からのコカイン輸送ルート



出典 OECD, 2014: 232.

このコカインの取引には AQMI が関わっているとする説と、直接には関わっていないという説とがある。一方、MUJAO の周囲にはガオの町の実業家で麻薬を取り引きしていると言われる人物がいて、組織はその支援を受けているだろうとされている (Lacher, 2012: 5; 2003: 5-7)。だが、AQMI がコカイン取引に直接には関わっていないとしても、支配する地域を通行する輸送車から〈税〉を徴収しているということでは諸説はほぼ一致する<sup>15</sup>。ただし、2012 年にマリでトゥアレグの蜂起が始まり、輸送ルートであった北部をジハード組織が分割して支配するようになると、ルートは安全の保障されないマリから隣国ニジェールに移り、ニジェール北部のアガデスやアルリットがコカイン輸送の中継点になったという報告もある (Frintz, 2013)。

### 3. カタールからの資金援助

カタール他の湾岸諸国は、1980 年代からマリ北部やサヘル地域で援助活動を行ってきた。それもあって、近年のカタールの赤新月社による活発な難民支援活動なども、イスラーム主義者たちから受け入れられてきた。この人道的活動がなされていることを手掛かりに、カタールが急進派組織に財政支援をしているという噂が一举に広まったのである<sup>16</sup>。

実際に〈噂〉が広がった経過をみてみよう。最初にカタールとマリの組織との関係を報じたのは、フランスの風刺週刊誌『カナル・アンシェネ *Canard Enchaîné*』2012 年 6 月 6 日号の、「友好国カタールがマリのイスラーム原理主義者に財政支援」と題した記事だろう。そこでは、フランス軍事偵察局 (DRS) からの情報として、MNLA やアンサール・アッ＝

ディーン、AQMI そして MUJAO は「カタールからドルの支援を受けとっている。人質を捕らえたり麻薬やタバコの取引をしたりするだけでは、大変な浪費家であるイスラーム原理主義者には不足なのだろう」と、揶揄を込めつつ当局からの〈リーク〉が伝えられた。

この記事に、フランスだけでなくアルジェリアのいくつかのメディアが即座に反応した。いずれも、この『カナル・アンシエネ』の記事を紹介するという引用の形で、カタールとマリの急進派組織との関係をネット上で伝えたのである<sup>17</sup>。さらに、およそ半年後の 2013 年 1 月、フランスのマリ侵攻とイナメナス事件によって世界の注目がサハラの過激派組織に集まったのを機会に、噂は一気に拡散していったのである。

カタールからの資金援助については、実際のところよくわからない。ただ、アンサール・アッニディーンが身代金や麻薬取引に関係しているという説はほとんどなく、その資金源はよくわかっていない。いずれかの組織がカタールから資金援助を受けているとするなら、それはアンサール・アッニディーンである可能性はあるだろう。

## おわりに

中東およびアフリカ全体をカバーするフランス語の雑誌『ジュンヌ・アフリック』は 2015 年 1 月 25 日刊の第 2820 号の中東・マグレブ版<sup>18</sup>の表紙に、イナメナス事件の首謀者モフタール・ベルモフタールの絵の上に大きな文字で「サヘルのビン・ラーディン」と説明をつけたデザインを採用した。同誌の記者カラヨル (Carayol) の署名のある「ベルモフタール、サヘリスタン<sup>19</sup>の首領 (Belmokhtar : le parrain de Sahelistan)」と題した 5 ページの特集記事では、ベルモフタールを取りあげた 2 冊の本<sup>20</sup>などからも引用しながら、これまで『ジュンヌ・アフリック』をはじめさまざまな雑誌記事や調査報告などで描かれてきたベルモフタール像とは全く逆の像が提示された。ある意味で、今後のサハラのイスラーム主義者理解の転機となりうる特集だといってもよいだろう。

ジハーディストとなって 20 年を超えるベルモフタールであるが、これまでの評判は相当ひどいものだった。曰く、「麻薬密売人のテロリスト」、タバコの密輸に専念しているという意での「ミスター・マルボロ」、あるいはあからさまに「不良 voyou」「チンピラ flippe」「ならず者 bandit」等々である。ほとんどの雑誌の記事ではそのように書かれてきた<sup>21</sup>。一般誌だけではなく各国の政府系シンクタンクの報告書などでも同様である<sup>22</sup>。ベルモフタールがタバコや麻薬の取引に手を染めているという確とした証拠がないまま、引用に引用をかさね噂が一人歩きしたのであろう。これについて、ミスター・マルボロというのは「敵を中傷するための情報戦」(Diffalah, 2013) として、「アルジェリアの諜報部が作り出したもので、それにフランスを含め他の国の諜報部は毒されて攪乱されたのだ」とカラヨ

ルは指摘している (Carayol, 2015: 39)。

サハラ急進派の中で、AQMI、MUJAO、血盟団の3つのジハード組織の最大の資金源はこれまで誘拐した人質の身代金であった。同じくジハード組織ではあるがアンサール・アッ=ディーンについては、その資金は豊かそうでありながら誘拐をして身代金を得たという例も麻薬に関係しているという噂が流れることもなく、何が資金源なのかは明らかではない。同じことは分離独立を掲げる組織である MNLA にも言えて、その資金源についてはよくわからないままであるが、そもそも MNLA に関しては資金の乏しいことが指摘されており、身代金や麻薬取引などとは無関係なのだろう。

### 【参考文献】

- Abraham, Itty and Willem van Schendel (2005). "The making of illicitness". Willem van Schendel and Itty Abraham (eds.), *Illicit Flows and Criminal Things: States, Border, and the Other Side of Globalization*. Bloomington and Indianapolis: Indiana Univ. Press.
- Bayart, Jean-François, Stephen Ellis & Béatrice Hibou (1999). *The criminalization of the state in Africa*. Oxford: Indiana University Press.
- Brachet, Julien (2004). "Le négoce caravanier au Sahara central : histoire, évolution des pratiques et enjeux chez les Touaregs Kel Aïr (Niger)". *Cahier d'Outre-Mer*, 226/227: 117-136. URL: <http://com.revues.org/pdf/512>
- Brachet, Julien (2005). "Migrants, transporteurs et agents de l'État: rencontre sur l'axe Agadez-Sebha", *Autrepart*, 36: 43-62.
- Brachet, Julien (2009). *Migrations transsahariennes: vers un désert cosmopolite et morcelé (Niger)*. Broissieux: Edition du Croquant.
- Carayol, Rémi (2015). "Mokhtar Belmokhtar, le parrain du Sahelistan". *Jeune Afrique*, No.2820, 1月25日, 36-40.
- Callimachi, R. (2014). "Paying Ransoms, Europe Bankrolls Qaeda Terror", *The New York Times*, 7月29日。URL: [http://www.nytimes.com/2014/07/30/world/africa/ransoming-citizens-europe-becomes-al-qaedas-patron.html?\\_r=0](http://www.nytimes.com/2014/07/30/world/africa/ransoming-citizens-europe-becomes-al-qaedas-patron.html?_r=0)
- Ellis, Stephen (2009). West Africa's international drug trade, *African Affairs*, 108/431: 171-196. URL: [http://hal.archives-ouvertes.fr/docs/00/82/40/53/PDF/2012-HCH-NEW\\_SCRAMBLE.pdf](http://hal.archives-ouvertes.fr/docs/00/82/40/53/PDF/2012-HCH-NEW_SCRAMBLE.pdf).
- Diffalah S. (2013). "Sahel. Les djihadistes et la «cocaïne connection»". *Nouvel Observateur*. 3月1日。URL: <http://tempsreel.nouvelobs.com/guerre-au-mali/20130225.OBS9921/sahel-les-djihadistes-et-la-cocaine-connection.html>.
- Fowler, Robert (2011). *A Season in Hell: My 130 Days in the Sahara with al Qaeda*. HarperCollins.
- Frintz, Anne (2013). Trafic de cocaïne, une pièce négligée du puzzle sahélien. *Le monde diplomatique*, 2013年2月。URL: <http://www.monde-diplomatique.fr/2013/02/FRINTZ/48744>
- Grégoire, Emmanuel (2010). *Touareg du Niger: le destin d'un mythe*. Paris: Karthala.
- Grégoire, Emmanuel (2013). "Islamistes et rebelles touaregs maliens : alliances, rivalités et ruptures", *EchoGéo* [En ligne], Sur le Vif. URL: <http://echogeo.revues.org/13466>
- International Crisis Group, 2005. *Islamist Terrorism in the Sahel: Fact of Fiction?* (Africa Report No. 92). Brussels: International Crisis Group. URL: <http://dspace.africaportal.org/jspui/bitstream/123456789/18235/1/Islamist%20Terrorism%20in%20the%20Sahel%20Fact%20or%20Fiction.pdf?1>
- Lacocq, Baz & Paul Schrijver (2007). "The war on terror in a haze of dust: potholes and pitfalls on the Saharan Front". *Journal of contemporary African studies*, 25.
- 茨木透 (2014). 「イスラーム組織アンサール・アッ=ディーンの指導者イヤド・アグ・ガリ」。日本国際問題研究所『サハラ地域におけるイスラーム急進派の活動と資源紛争の研究——中東諸国とグローバルアクターとの相互関連の視座から』(平成25年度外務省外交・安全保障調査研究事業(調査研究事業))。日本国際問題研究所、77-86頁。
- Laurent, Samuel (2013). *Sahelistan*, Seuil.

- Institute Espagnole d'Études Stratégiques, 2013. *Terrorism et trafic de drogues en l'Afrique sub-saharienne*.  
 Institute Espagnole d'Études Stratégiques. URL:[http://www.ieee.es/Galerias/fichero/docs\\_trabajo/2013/DIEEET01-2013\\_IIIEE-IMDEP\\_VersionFRANCES.pdf](http://www.ieee.es/Galerias/fichero/docs_trabajo/2013/DIEEET01-2013_IIIEE-IMDEP_VersionFRANCES.pdf)
- International Crisis Groupe (2013). *Mali : sécuriser, dialoguer et réformer en profondeur*, (Rapport Afrique n° 201).  
 International Crisis Groupe. URL:<http://www.crisisgroup.org/fr/regions/afrique/afrique-de-louest/mali/201-mali-security-dialogue-and-meaningful-reform.aspx>
- Julian, Simone (2011). “Le Sahel comme espace de transit des stupéfiants. Acteurs et conséquence politique”.  
*Hérodote* 142: 125-142.
- Khatib, Lina (2013). “Qatar’s foreign policy: the limits of pragmatism”. *International Affairs*, 89:(2): 417–431.  
 URL: [http://fsi.stanford.edu/sites/default/files/INTA89\\_2\\_10\\_Khatib.pdf](http://fsi.stanford.edu/sites/default/files/INTA89_2_10_Khatib.pdf)
- Kohl, Ines. 2007. “Going ‘Off road’: With Toyota, Chech and E-Guitar through a Saharian Borderland”, in Hans Peter Hahn and Georg Klute (eds.), *Cultures of Migration: African Perspectives*. Berlin: LIT Verlag, pp. 89-106.
- Kohl, Ines (2010a). “Modern nomads, vagabonds, or cosmopolitans?: reflections on contemporary tuareg society”.  
*Journal of anthropological research*, 66(4): 449-462.
- Kohl, Ines (2010b). “Saharan ‘borderline’ strategies: Tuareg transnational mobility”. Tilo Grätz (ed.), *Mobility, transnationalism and contemporary African societies*. Newcastle: Cambridge Scholars Publishing.
- Kohl, Ines (2013). “Afrod, le business touareg avec la frontière: nouvelles conditions et nouveaux défis”. *Politique Africaine*, 132: 139-159.
- McGovern, Mike, 2010. “Chasing shadows in the dunes: Islamist practice and counterterrorist policy in West Africa’s Sahara-Sahel zone”. Malinda S. Smith (ed.) *Securing Africa: Post-9/11 discourses on terrorism*. Farnham: Ashgate. pp. 79-97.
- Nordstrom, Carolyn (2004). *Shadows of War: Violence, Power, and International Profiteering in the 21st Century*. Berkeley: University of California Press.
- DECD(2014). *An Atlas of the Sahara-Sahel: Geography, Economics and Security* Paris: OECD
- Plagnol, Henri, & François Loncle (2012). *La situation sécuritaire dans les pays de la zone sahélienne, Rapport d’information 4431 présenté à l’Assemblée Nationale, 6 mars 2012*. <http://www.assemblee-nationale.fr/13/rap-info/i4431.asp>
- Pringle, Robert (2006). *Democratization in Mali: putting history to work*. Peaceworks 58, Washington DC: United States institute of peace. URL: [http://pdf.usaid.gov/pdf\\_docs/Pnado612.pdf](http://pdf.usaid.gov/pdf_docs/Pnado612.pdf)
- Salem, Lemine Ould M. (2014). *Le Ben Laden du Sahara: Sur les traces du jihadiste Mokhtar Belmokhtar*. Édition de la Martinière.
- Scheele, Judith (2011). “Circulation merchandise au Sahara : entre licit et illicite”. *Hérodote* 142: 143-162.
- Scheele, Judith (2012a). *Smugglers and saints of the Sahara: regional connectivity in the twentieth century*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Scheele, Judith (2012b). “Garage or caravanserail: Saharan Connectivity in al-Khalīl, Northern Mali”. James McDougall and Judith Scheele (eds.), *Saharan Frontiers: Space and Mobility in Northwest Africa*. Bloomington: Indiana University Press.
- Touchard, Laurent, Baba Ahmed, & Cherif Ouazani (2012). “Mokhtar Belmokhtar, le trafiquant”. *Jeune Afrique*, 2698 号、2012 年 10 月 3 日。
- UNODC (2013). *Transnational organized crime in West Africa: A threat assessment*. UNODC.  
[http://www.unodc.org/documents/data-and-analysis/tocta/West\\_Africa\\_TOCTA\\_2013\\_EN.pdf](http://www.unodc.org/documents/data-and-analysis/tocta/West_Africa_TOCTA_2013_EN.pdf)
- 若桑遼 (2014). 「北アフリカのイスラーム急進派「マグリブ・イスラーム諸国のカーイダ」のウェブ上の声明分析」。日本国際問題研究所『サハラ地域におけるイスラーム急進派の活動と資源紛争の研究——中東諸国とグローバルアクターとの相互連関の視座から』(平成 25 年度外務省外交・安全保障調査研究事業 (調査研究事業))。日本国際問題研究所、45–61 頁。

—注—

- 1 AQMIについては昨年度の報告書の中の若桑（2014）に詳しい。
- 2 イヤド・アグ・ガリとアンサール・アッ=ディーンについては昨年度の報告書のなかの拙稿（茨木 2014）を参照。
- 3 2013年1月、アルジェリアのイナメナス In Amenas の近くの天然ガス・プラントで起きた人質拘束事件。人質になっていた日本人10人を含む37人が死亡した。実行したのはターバン旅団から編成された「血盟団 Signataires par le sang」。
- 4 2013年8月に、ターバン旅団と MUJAO は合流し、ベルモフタールを指導者とする「アル・ムラビトゥン Al-Mourabitoune」を名のった。
- 5 他にアラブ人主体の「アザワド・アラブ運動 Mouvement arabe de l'Azawad (MAA)」など。
- 6 例えば France24 のホームページの記事、"Libération de Lazarevic : ses propres ravisseurs comme monnaie d'échange ? ", <http://www.france24.com/fr/20141209-liberation-lazarevic-ravisseurs-monnaie-echange-rancon-aqmi-mali-niger/>。なお、ラザルビックの解放の際には、身代金だけでなくマリ政府に捕らえられていた2人のAQMIのメンバーらの釈放も行われた。
- 7 ノードストームはアンゴラやモザンビークの戦争経済を研究する中で、無法でなんら道徳性のないように見える世界にも、一定の秩序があることを明らかにした（Nordstorm, 2004）。
- 8 これらの他に密輸品には高級盗難車や武器があるが（Scheele, 2012a: 115）、いずれもその取引の詳細についてはよくわからず、本稿では触れることはできない。
- 9 GlobalPetrolPrices.com を参照。 [http://www.globalpetrolprices.com/gasoline\\_prices/](http://www.globalpetrolprices.com/gasoline_prices/)（2015年2月16日の価格）
- 10 サハラ伝統的慣習からすると、通行権（droits de passage）に対する支払いであるとも解釈できる（Brachet, 2004; Strazzari, 2014）。
- 11 このタバコ輸出の規模であるが、ブラシェットによれば2000年代前半には1度のキャラバンには70台から120台のトラックが加わるが、そのようなキャラバンが3~4週に1度の頻度でアガデスを出発する。1台のトラックに約1000個のタバコの入った段ボールが積まれる。段ボール1個は50カートン入りなので、1台のトラックで5万カートン、つまり50万箱のタバコが運ばれる。段ボール1箱の価値12万5千から25万セーファー・フラン（F CFA）とされるが、仮に25万 F CFA とするとトラック1台で2.5億 F CFA、1 F CFA を0.2円とすると、日本円で約5千万円のタバコを積んでいることになる。100台のトラックからなるキャラバンが年間15回出発するとすれば、1年でニジェールからリビアへ輸出されるタバコの総額は750億円となる。この利益はいくらになるのかは、国境を越えたりリビアではいくらか取引されるかがわからず明らかでない。
- 12 タバコの輸送で捕まりアルジェリアの刑務所に数ヶ月収監され釈放された後、麻薬の輸送で再度アルジェリアの治安部隊に逮捕されたアラブ人の若者の例（Scheel, 2012a: 110）のように、運転手がまったく安全だというわけではない。
- 13 2009年11月、マリのガオ Gao の北の町タルキント Tarkint の近くの砂漠にボーイング 727 型機が着陸し積み荷を降ろしたあと、離陸不能となったためか機体ごと放火され燃やされた事件。数トンから十数トンのコカインが積まれていたとされている。
- 14 西アフリカを通過しヨーロッパへ運ばれるコカインの量は、国連薬物・犯罪事務所（UNODC）のレポートでは、2007年には47トンだったのが2010年には18トンに減少していると推定されている（UNODC, 2013: 17-18）。
- 15 注10を参照。
- 16 噂の先頭に立っていたのは、アラブの春を支援したカタールに不快を感じていたアルジェリアだと、ハティブは推測している（Khatib, 2013: 426）。
- 17 『ジュンヌ・アフリック』誌のホームページ [jeuneafrique.com](http://jeuneafrique.com) に2012年6月6日付で掲載された“le Qatar accuse de financer les groupes islamistes de l'Azawad”と題する記事、アルジェリアの『エルワタン El Watan』紙のホームページ [elwatan.com](http://elwatan.com) に同7日付で掲載された“Révélation du Canard Enchaîné : le Qatar finance le terrorisme au Mali”と題する記事、同じくアルジェリアの『レクスプレッション L'Expression』紙のホームページ [lexpressiondz.com](http://lexpressiondz.com) に同9日付で掲載された“il finance le terrorisme au Sahel: L'émir du Qatar continue à faire des siennes”と題する記事など。
- 18 正確には「中東・マグレブ・全世界」版。ヨーロッパでもこの版が売られ、デジタル化もこの版による。別に「サハラ以南のアフリカ」版があり、2820号では異なる表紙が使われた。
- 19 サヘリスタン（Sahelistan）とはサハラ・サヘル地域をアフガニスタンに喩えた造語（Laurent, 2013）。

- <sup>20</sup> カナダの外交官、ロバート・フォーラーのベルモフタールの下での捕囚記。英語版は (Fowler, 2011)。もう一冊はベルモフタールについて論じたモーリタニア人ジャーナリスト、サレムの著書 *Le Ben Laden du Sahara: Sur les traces du jihadiste Mokhtar Belmokhtar* (『サハラのビン・ラーディン—ジハーディスト、モフタール・ベルモフタールの足跡』) (Salem, 2014)。『ジュンヌ・アフリック』の表紙の「サハルのビン・ラーディン」はこの本の書名を使ったものと思われる。
- <sup>21</sup> 例えば "Mokhtar Belmokhtar, le trafiquant" (「モフタール・ベルモフタール、密売人」) と題した『ジュンヌ・アフリック』の記事 (Touchard, Ahmed et Ouazani 2012)。
- <sup>22</sup> スペインの戦略研究所 *Institute Espagnole d'Études Stratégiques* の報告書 (*Institute Espagnole d'Études Stratégiques*, 2013)、ベルギーのシンクタンク *International Crisis Group* の報告書 (*International Crisis Group*, 2005) のほか、フランス国民議会への報告書 (Plagnol et Loncle, 2012) など。
- ただし、すでにいくつかの異論が出ていたことも指摘しておく必要がある。その一つとして、ラシェールによるカーネギー国際平和基金の報告書『サヘル=サハラ地域における組織犯罪と紛争』がある。彼は「AQMI が麻薬の密輸に直接関与しているとの主張を支持する証拠はほとんどない」と指摘した (Lacher 2012: 8)。ラシェールはさらに「西アフリカ麻薬委員会 *West Africa Commission on Drugs*」の報告書のタイトルを『サヘルにおける麻薬=テロ連鎖という神話への挑戦』とし、テロリストよりも「公務員や地域のエリートの組織犯罪、とりわけ麻薬の取引への深い関与」こそ、より根本的な問題であると主張している (Lacher 2013: 9)。